

三菱電機 **ビル・店舗用**
エアコン別売部品
加湿器

形名

PAC-KF41CH
PAC-KF43CH
PAC-KF49CH
PAC-KF73CH
PAC-KF74CH

取付説明書（販売店・工事店様用）

もくじ

安全のために必ず守ること	2
1. 適用機種	5
2. 構成部品	6
<1> 構成部品一覧	6
<2> 製品の運搬と開梱	7
3. 取付要領	7
<1> 給水電磁弁と加湿エレメントの取付け	7
<2> フロートスイッチの取付け	11
4. 配線の接続要領	12
<1> 電気配線要領	12
5. 現地側の配管接続（バルブ組立の接続）	13
6. 取付工事後の確認	13
7. 加湿器の試運転	14
8. お客様への説明	14
9. メンテナンス	15

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- この製品は国内専用です。日本国外では使用できません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度

 **注意** 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。



- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しく下さい。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

 **警告**
電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格のある者が行うこと。

一般事項

警告

特殊環境では、使用しないこと。

- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



暖房シーズン前に加湿エレメントを点検し、劣化したエレメントは交換すること。

- 水漏れによりユニットが損傷し、家財がぬれるおそれあり。
- ユニット損傷による冷媒漏れのおそれあり。



改造はしないこと。

- 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- 運転停止から5分以上待つこと。
- ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- 保存品が品質低下するおそれあり。



部品端面や熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- けがのおそれあり。



作業するときは保護具を身につけること。

- ◆ けがのおそれあり。



けが注意

水回路の温度が0℃以下になるところに加湿器を設置しないこと。

- ◆ 水回路凍結によりユニットが損傷するおそれあり。
- ◆ 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

運搬・据付工事をするときに

⚠ 注意

梱包に使用している PP バンドを持って運搬しないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



運搬禁止

20kg 以上の製品の運搬は、1 人でしないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



運搬禁止

据付工事をするときに

⚠ 警告

梱包材は破棄すること。

- ◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を実行

空気清浄器・加湿器・暖房用電気ヒーターなどは販売店または専門業者が当社指定の別売品を取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、水漏れ・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

ぬれて困るものの上に据付けないこと。

- ◆ 湿度が 80% を超える場合や、ドレン出口が詰まっている場合、室内ユニットからの露落ちにより、天井・床がぬれるおそれあり。



据付禁止

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- ◆ 据付けたユニットに傾斜がある場合、ドレン漏れのおそれあり。



指示を実行

給水チューブ取付時は、チューブの先端を継手に密着して取付けること。

- ◆ 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

販売店または専門業者が取付説明書に従って取付工事を行うこと。

- ◆ 水漏れ・けが・感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

排水チューブ取付時は、チューブの先端をドレンパンに収めること。

- ◆ 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

電気工事をするときに

⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

移設・修理をするときに

警告

改造はしないこと。ユニットの移設・
分解・修理は販売店または専門業者に
依頼すること。

• 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のお
それあり。



禁止

⚠ 注意

部品端面や熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

・けがのおそれあり。



接触禁止

お願い

- ・取付けは「3. 取付要領」に従って、確実に行ってください。
- ・取付けはユニット本体の電源を切った状態で行ってください。
- ・取付けはユニット本体を吊下げる前に行ってください。

1. 適用機種

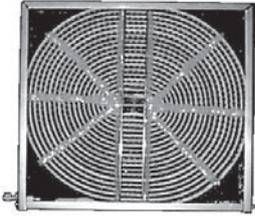
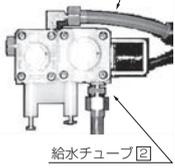
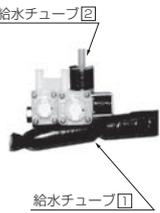
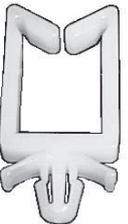
本加湿器に対応する適用機種を必ず確認し、誤使用のないようにお願いします。

形名	適用機種	形名	適用機種
PAC-KF41CH	PEFY-J/P45・56・71M-B1,C,E1,G,G1 (M)PE-RP50・56・63・71CA * (~ 13 まで)	PAC-KF49CH	PEFY-J/P112・140・160M-B1, C-F,E1,G,G1 PEZ-J112・140CA,PEAG-J140AW-A (M)PE-RP112・140・160CA * (~ 13 まで)
PAC-KF43CH	PEFY-J/P80・90M-B1,C,E1,G,G1 (M)PE-RP80CA * (~ 13まで)	PAC-KF73CH	PEFY-J90M-B1,C-F PEFY-P90M-E1,G * -F (~ 5まで)
		PAC-KF74CH	PEFY-J112・140M-B1,C-F PEFY-P112・140・160M-E1,G * -F(~ 5まで)

2. 構成部品

<1> 構成部品一覧

この別売部品には加湿器以外に下記同梱部品が付属されておりますので取付け前に確認してください。

部品	①加湿エレメント		②給水電磁弁		③加湿器 制御基板	④リード線 組立A
形状			PAC-KF41・43・49CH 	PAC-KF73・74CH 		
数量	1		1	1	1	1
部品	⑤リード線 組立B	⑥フロート スイッチ組立	⑦バルブ組立	⑧札付き コネクタ	⑨ハウジング 3P (赤)	⑩パンタイ
形状						
数量	1	1	1	1	1	2
部品	⑪ワイヤーサドル	⑫ナイロンクリップ	⑬プッシュ	⑭ゴムプッシュA	⑮ゴムプッシュB	
形状						
数量	1	1	1	1	1	
部品	⑯レール		⑰カバーA	⑱カバーB		
形状	PAC-KF41・49・74CH 	PAC-KF43・73CH 				
数量	2	2	1	1		
部品	⑲バルブ取付板	⑳PTTネジ 4×10	㉑PTTネジ 4×16	㉒PTTネジ SUS 4×10		
形状						
数量	1	3	2	2		

<2> 製品の運搬と開梱

- 本製品は、据付場所まで梱包のまま搬入してください。また本製品に傷をつけないようにしてください。
- 本製品に足を掛けしないでください。

3. 取付要領

⚠ 注意

部品端面や熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- けがのおそれあり。



接触禁止

給水チューブ取付時は、チューブの先端を継手に密着して取付けること。

- 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

作業するときは保護具を身につけること。

- けがのおそれあり。



けが注意

排水チューブ取付時は、チューブの先端をドレンパンに収めること。

- 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

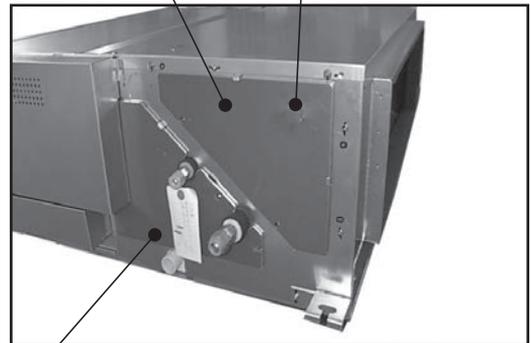
<1> 給水電磁弁と加湿エレメントの取付け

加湿器の取付けは、室内ユニットの据付け前に行ってください。

- 1) 固定ネジを外し加湿器メンテナンスカバー1（ネジ2本）及び熱交換器カバー（ネジ4本）を取外します。（写真3-1）
- 2) 加湿器メンテナンスカバー1の断熱材を抜き取ります。

加湿器メンテナンスカバー1

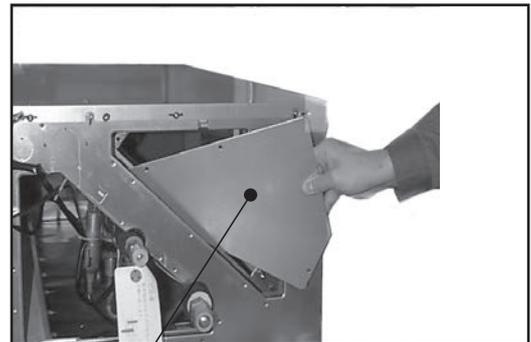
断熱材抜き取り部



熱交換器カバー

写真3-1

- 3) 固定ネジ（2本）を外し加湿器メンテナンスカバー2を取外します。（写真3-2）
加湿器メンテナンスカバー2は加湿器メンテナンスカバー1の奥にあります。
加湿器メンテナンスカバー2は使用しませんので廃却願います。
また、取外したネジは使用しますので廃却しないでください。



加湿器メンテナンスカバー2

写真3-2

- 4) レール⑩ (2本) を奥側は写真 3-4 に示すように熱交コアに引っ掛け、手前側は写真 3-5 に示すようにネジ⑳ (各1本) で取付けます。
 上レールと下レールとでは、下図のようにネジ穴が異なりますので取付前に確認ください。
 レールの取付け完成写真を写真 3-3 に示します。
 (PAC-KF43・73CH の場合は下レールに不織布が付いています。)

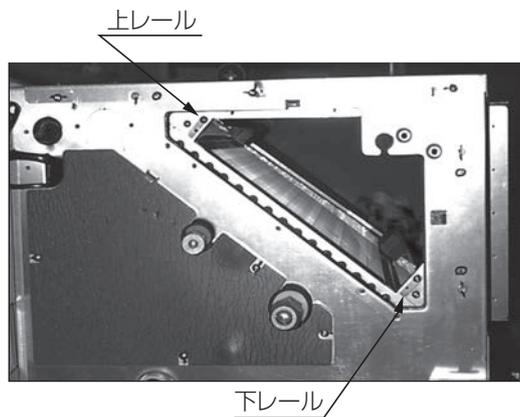
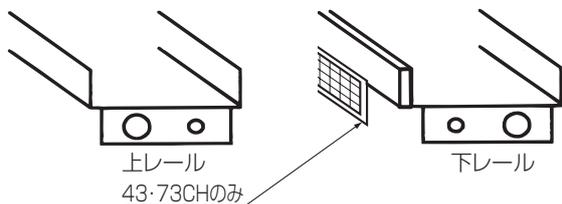


写真3-3

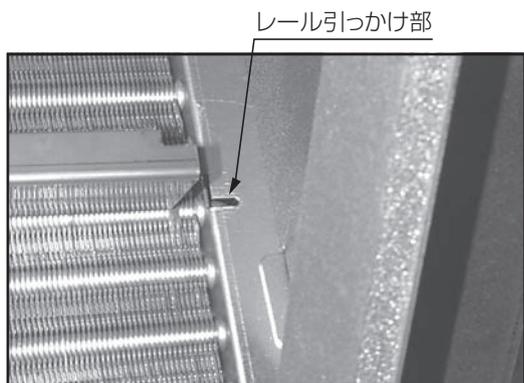


写真3-4



写真3-5

- 5) プッシュ⑬の中央にカッターで切り目を入れ、給水チューブ②に差込みます。(写真 3-6)

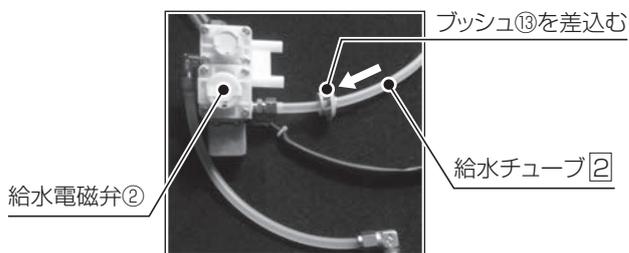


写真3-6

- 6) 給水電磁弁②の給水チューブ①を、下記の必要長さ寸法となるよう、カッターなどで切断します。切断したチューブへ、ゴムプッシュA⑭、ナット、スリーブの順に、各部品を挿入します。(図 3-1)

[必要長さ寸法]

- PAC-KF41CH …… 130mm
- PAC-KF43・73CH … 200mm
- PAC-KF74・49CH …200mm

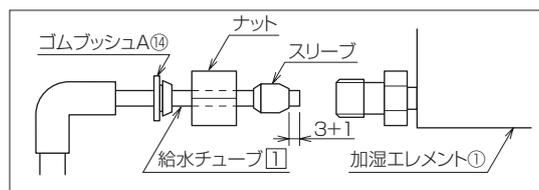
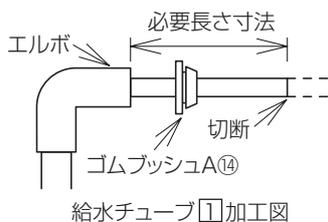


図3-1



7) 給水チューブ①を、下記に従い確実に取付けます。

ア) チューブを加湿エレメント継手にはめ込み、チューブ先端とスリーブが継手に当たるように押し込んでください。その後、チューブにマークを付けてナットを手締めしてください。(図3-2)

お願い

- チューブ先端を継手の奥に押し込みながらナットを手締めしてください。
スリーブ端とチューブのマークがずれていないことを確認してください。

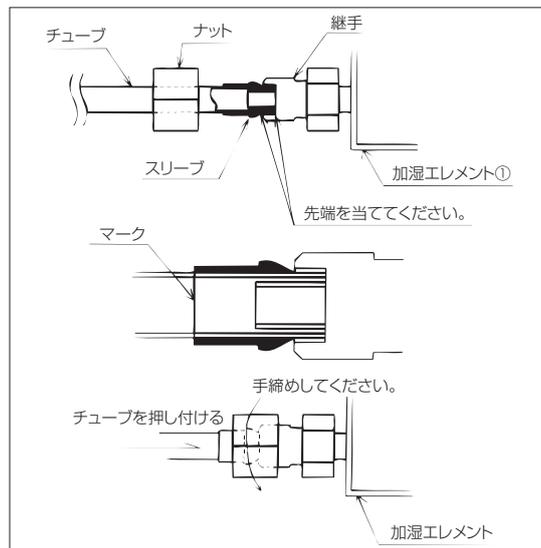


図3-2

イ) ナットをダブルスパナで $4^{+0.5}_0$ N·m (手締め後、2 ~ 2.5 回転) の力で締め付けてください。(図3-3)

※ チューブのマークがスリーブ端から外側に1~3mm程度ずれることがあります、この範囲では問題ありません。

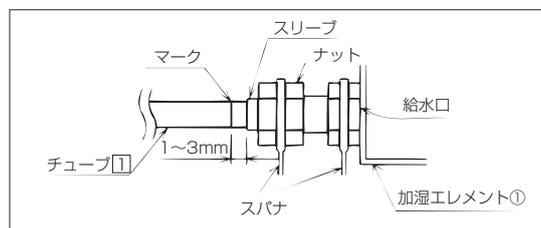


図3-3

8) カバーB⑩を写真3-7に示すように3) で取外したネジ2本で固定してください。

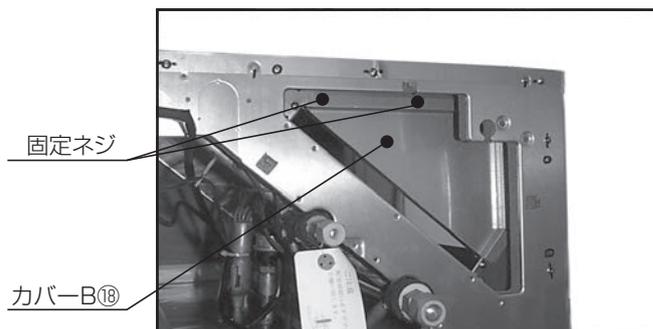


写真3-7

9) 5) で取り付けたゴムブッシュA⑭にカバーA⑰を写真3-8の様に差込みます。

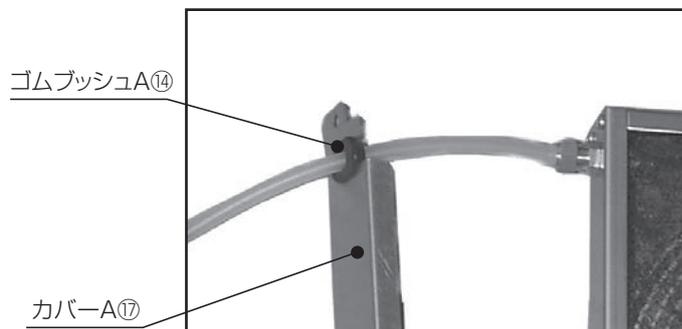


写真3-8

- 10) レールに沿って加湿エレメント①を本体に入れカバーA⑦をSUSネジ②(2本)で固定します。(写真3-9)



写真3-9

- 11) 給水電磁弁②を写真3-10に示す様にネジ②(2本)で固定しブッシュ⑬をはめます。

お願い

- 給水チューブが折れないようにしてください。

- 12) 給水電磁弁②の排水チューブをワイヤーサドル⑩にてドレンパン内に入るよう固定します。ワイヤーサドル⑩は写真3-10に示す室内ユニット内部の取付穴に差込みます。

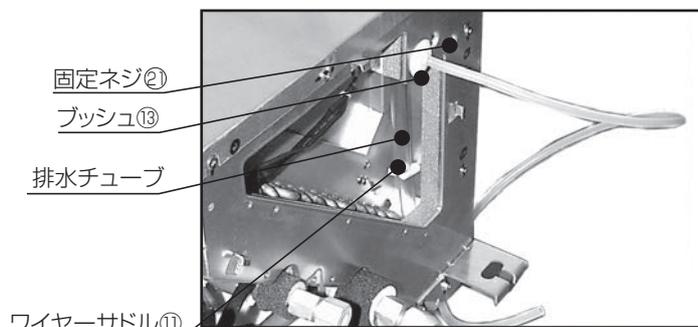


写真3-10

排水チューブの先端は写真3-11の通り、熱交換器配管の間を通し、確実にドレンパン内に収まっていることを確認してください。

写真3-12のようにチューブ先端がドレンパン内に収まっていない状態にしないでください。

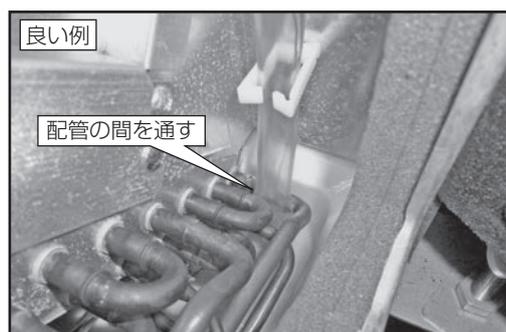


写真3-11

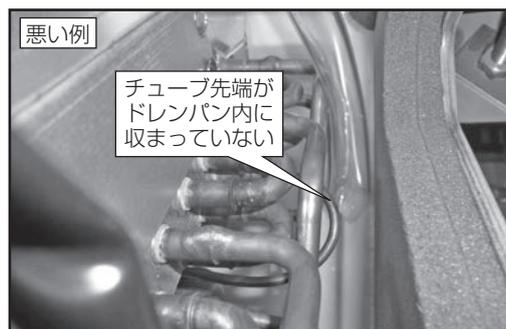


写真3-12

- 13) 給水電磁弁の配線は液管の下を通し、ドレンポン上でトラップを設け（パンタイで結束）、ゴムブッシュ B ⑮で保護し、取出します。
 (写真 3 - 13)
 ゴムブッシュ B ⑮の取付けは、写真 3 - 13 に示す位置にドライバー等の工具を用いてノックアウト穴を開口した後、給水電磁弁の配線を通し、取付けます。

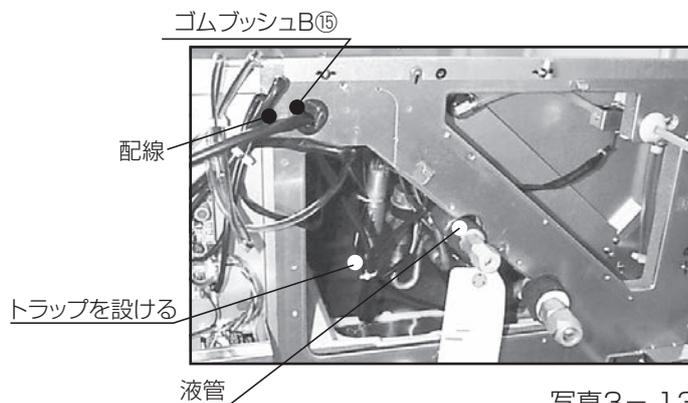


写真3-13

- 14) 加湿器メンテナンスカバー 1 及び熱交換器カバーを取付けます。
 (写真 3 - 14)
 ※ 当社別売部品のドレンアップメカを組込む場合は、3. <2> 項を参照の上ドレンポンプにフロートスイッチを先に取付けてください。

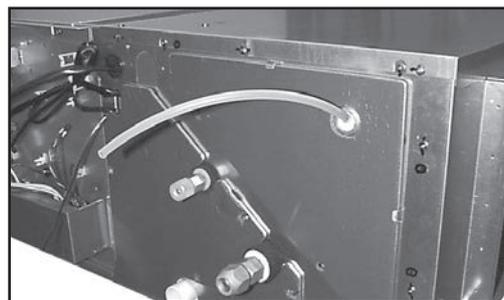


写真3-14

<2> フロートスイッチの取付け

(ドレンアップメカ組込時のみ)

当社別売部品のドレンアップメカを組込む場合、ドレンポンプにフロートスイッチ⑥を組込む必要があります。

- 1) ドレンポンプのドレンセンサーの横にある板金のU字部分にフロートスイッチ⑥を手締めでしっかりと取付けます。
 取付後、フロートが軽く上下に動くことを確認してください。
- 2) 4. <1> 項に従い配線を行います。

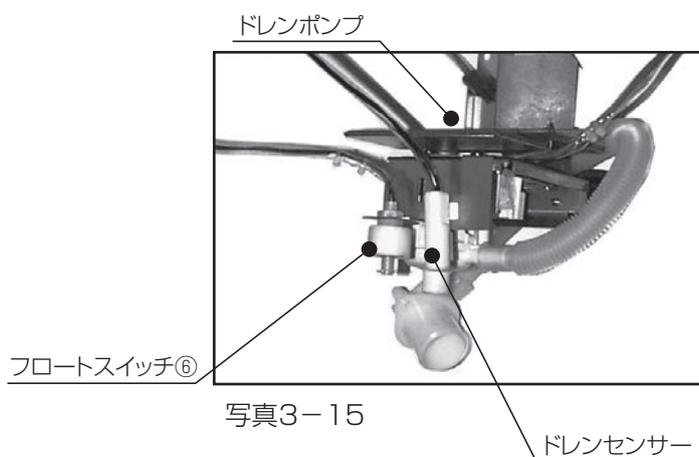


写真3-15

4. 配線の接続要領

⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

• 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

• 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

• 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

• 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

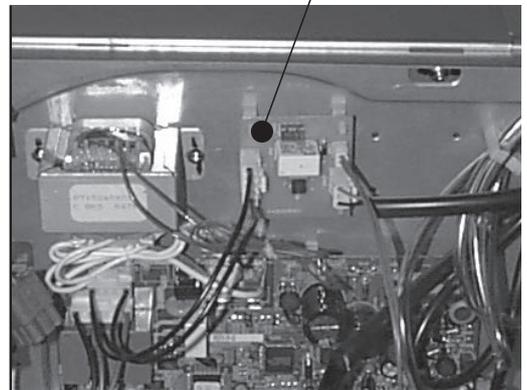
<1> 電気配線要領

- 1) 加湿器制御基板③を写真4-1に従って制御箱内のトランスの横に取付けてください。
- 2) 配線の接続方法は図4-1に従って接続してください。
 - ア) リード線組立A④にてインドア基板 CN25 (白2P) と加湿器制御基板 CNX (白2P) を接続します。
 - イ) リード線組立B⑤にてインドア基板 FAN2 (黄5P) と加湿器制御基板 CNI (白5P) を接続します。(PEZ-J112,140CA、PEAG-J140AW-A に⑤は必要ありません。※1を参照ください。)
 - ウ) 給水電磁弁②のリード線のコネクタを加湿器制御基板③のCNO に接続します。

ドレンアップメカを取付け時には下記の配線接続を追加してください。
 (PEZ,(M)PE の場合は端子台部の配線が異なります。※2を参照ください。)

加湿器とドレンアップメカを併用して使用する場合は、フロートスイッチ⑥をドレンアップメカの試運転用コネクタに差込みます。

加湿器制御基板③



(PEFYの場合) 写真4-1

※1 PEZ-J112・140CA
PEAG-J140AW-Aの場合

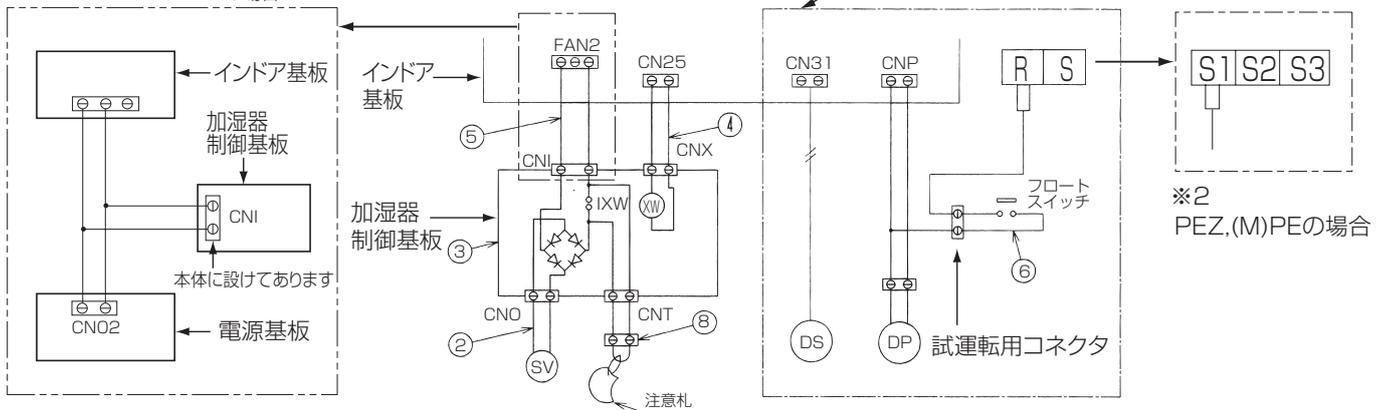


図4-1

試運転後、札付きコネクタ⑧を必ず取外してください。
 (外し忘れると、給水電磁弁の故障につながるおそれがあります。)

取外した後、ハウジング(赤)⑨を取付けてください。

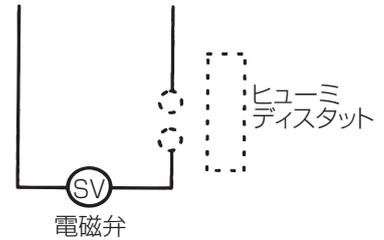
最後に必ず基板コネクタの接続確認を実施してください。

ヒューミディスタットの取付けについて

本加湿器は透湿膜式で自己制御特性があり、ヒューミディスタットの取付けは基本的に不要です。現地システム上ヒューミディスタットを設ける必要がある場合は給水電磁弁の200V回路に現地改造にて接続してください。

(ヒューミディスタットの接点定格は0.1A以上のものを選定してください。)

※ オールフレッシュ機種 (PAC-KF73・74CH) についてはヒューミディスタットを使用することができません。

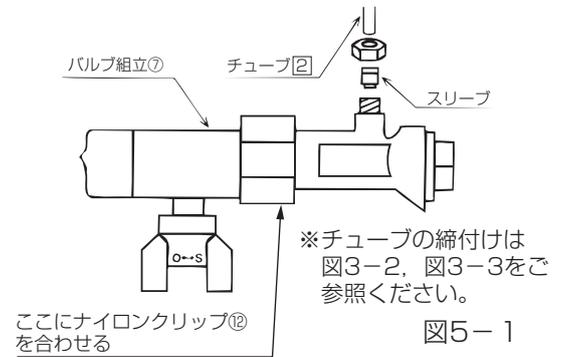


5. 現地側の配管接続 (バルブ組立の接続)

給水電磁弁②のチューブ②をカッター等で適当な長さに切断しこの先端をバルブ組立⑦に取付けてください。(図5-1)

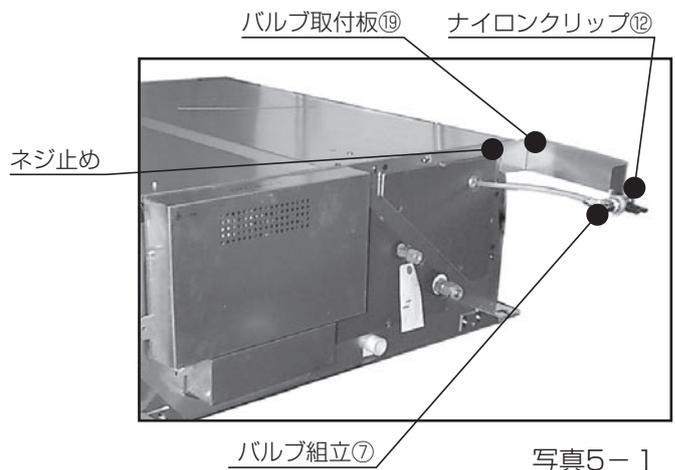
・バルブ取付板⑯を使用してバルブ組立⑦を固定する場合

- 1) バルブ取付板⑯写真5-1で示す位置に室内ユニット本体のネジをゆるめ取付けます。
- 2) バルブ組立⑦にナイロンクリップ⑰を図5-1に示す位置に合わせ、ネジ⑱(1本)でバルブ取付板⑯に取付けます。



・据付スペース等の制約でバルブ取付板が使用できない場合

- 1) 給水電磁弁②のチューブ②に無理な力が掛からない範囲にて現地吊り金具などを利用してバルブ組立を固定してください。現地給水配管は吊り金具等を用いて保持してください。
 ※ 給水チューブ②に荷重がかかったり、折り曲げたりしないでください。
 ※ バルブ組立は室内ユニット本体と同等以上の高さに設け、1次給水管への逆流を防止できる据付けをお願いします。



現地側給水配管工事

給水には上水を使用してください。

公共の水道管に直接接続する事は出来ませんので、高架受水槽からの給水としてください。1次圧力は49kPa～696kPaです。

6. 取付工事後の確認

取付工事が完了しましたら、下表に従ってもう一度点検してください。

不具合がありましたら必ず直してください。(機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません。)

No.	チェック項目	チェック欄
1	接続部に隙間がないことを確認してください。(不備がある場合、風漏れなどのおそれがあります。)	
2	水配管接続部に水漏れが無い確認してください。	
3	水配管の断熱が行われているか確認してください。	
4	誤配線が無い確認してください。(不備がある場合、運転不能のおそれがあります)	
5	電気品のカバー・パネル(制御ボックスカバーなど)が取付けられているか確認してください。	
6	取付け後に作業の漏れがないかもう一度確認してください。	

7. 加湿器の試運転

⚠ 注意

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- 運転停止から 5 分以上待つこと。
- ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



お願い

- エアフィルターを外した状態で運転しないでください。ユニット内部にゴミが詰まり、故障のおそれあり。
- 暖房シーズン中は加湿器に給水してください。給水せずに暖房運転を続けた場合、故障のおそれあり。

お客様立ち会いで試運転を行ってください。

試運転要領

1) <加湿器の動作確認>

「準備」バルブ組立⑦の栓を開いて加湿器への給水準備をしてください。

- 室内ユニットの電源端子台のみ電源印加可能な場合
加湿器制御基板 CNT に札付きコネクタ⑧を接続してください。
電源印加後、室内ユニットの動作に関係なく給水電磁弁②が動きます。
動作確認後、必ず加湿器接続基板③の CNT に接続されている札付きコネクタ（赤色）⑧を取外してください。（取外した後はハウジング（赤）⑨を取付けてコネクタを保護してください。）

試運転後、札付きコネクタ⑧を必ず取外してください。
(外し忘れると、給水電磁弁の故障につながるおそれがあります。)

- 通常（リモコン）ができる場合
リモコンを ON にして暖房モードとしてください。（霜取中、ホットアジャストを除き、給水電磁弁が動きます。）
- ※ 上記により試運転が完了後長期間使用しない場合は、バルブ組立⑦を再び閉めて加湿器内のカビ防止の為に強制乾燥をお願いします。（強制乾燥は送風運転で約 20 時間運転させるのが目安です。）

1) <ドレンポンプの動作確認>

- フロートスイッチ組立⑥のフロート部分を浮上させてドレンポンプが動くことを確認してください。
- ※ 又、ドレンパンより水がオーバーフローする前にフロートスイッチが作動し排水することを必ず確認してください。

最後に必ず基板コネクタの接続確認を実施してください。

8. お客様への説明

- お使いになる方に正しい使い方をご説明ください。
お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- 「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- この取付説明書は、取付け後、お使いになる方にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合、この取付説明書を新しくお使いになる方にお渡しください。

9. メンテナンス

⚠ 警告

暖房シーズン前に加湿エレメントを点検し、劣化したエレメントは交換すること。

- 水漏れによりユニットが損傷し、家財がぬれるおそれあり。
- ユニット損傷による冷媒漏れのおそれあり。



指示を実行

メンテナンス

- 加湿エレメントの交換
加湿エレメントは交換が必要な消耗部品です。供給水は市水・上水を使用し、硬度 70 以下の場合、交換の目安は 5 年（6250 時間）です。交換目安は保証期間を示しているものではありませんのでご注意ください。
供給水中の硬度、イオン状シリカ、酸消費量が多い場合、加湿エレメントの劣化が早まり加湿能力の低下、変色、白粉発生などがあらわれることがあります。加湿能力の低下や加湿エレメントからの水漏れが確認されたら交換してください。
加湿エレメントから水漏れが発生すると、水分中のカルキ成分（白粉）が飛散する原因となります。
また、水漏れが長時間継続すると、熱交換器が腐食し、腐食物の飛散・結露水の飛散・性能低下の原因となります。
5 年（6250 時間）に満たないご使用期間であっても、一日の運転時間や供給水質などの影響によって劣化速度に差が生じますので、年 1 回以上必ず点検を実施お願いします。
- 加湿エレメントの乾燥についてのお願い
暖房シーズン終了後、そのまま放置しますと、場所によってはカビが発生することがあります。
カビの発生を防止するために強制乾燥を行ってください。強制乾燥は、給水バルブを閉じ、暖房運転してください。
- 暖房シーズン中についてのお願い
暖房中は必ず加湿器に給水してください。給水せずに暖房運転を続けると故障の原因となります。
- 保守点検方法
長い間ご使用いただくため、暖房シーズンイン時（汚れの状態により周期を早める）を目安に下記の点検を工事店にご依頼ください。なお、保守点検の際は、必ず電源を切ってから行ってください。

点検部品	保守点検内容		保守を怠った場合
	点検項目	処置内容	
ストレーナー	ゴミによる目詰まりの点検	ストレーナーの洗浄を行ってください。	加湿不良
	Oリング亀裂の点検	亀裂が生じている場合は交換してください。	水漏れ
給水管	傷や水漏れの点検	傷や水漏れがある場合は部品交換を行ってください。	水漏れ
電磁弁	水漏れの点検	水漏れがある場合は、部品交換を行ってください。	水漏れ
ドレンパン	ドレンパン内の汚れを点検	汚れている場合はドレンパンの清掃を行ってください。	排水不良
加湿エレメント	加湿エレメントからの水漏れ、ゴミ・ほこりの点検	水漏れ（染み出し）がある場合は、加湿エレメントの交換を行ってください。 ゴミ・ホコリのみ場合は清掃してください。	加湿不良 熱交換器腐食 白粉飛散
エアフィルター	ゴミによる目詰まりの点検	フィルターを清掃してください。	風量低下
ドレンアップメカ	排水性能の点検。 汚れ付着、ゴミ詰まりの点検	吸込口の清掃をしてください。 汚れが酷い場合は分解清掃または交換をしてください。 清掃後、排水性が低下している場合は部品交換をしてください。	排水不良

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

本社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)
冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66